

# 御退職記念号に寄せて

— 山本先生を送る言葉 —

日 野 資 成

山本博先生と初めてお会いしたのは、二〇〇一年四月、私が小郡キャンパスから曰佐キャンパスに引っ越しして来た時でした。以来、二〇一七年三月に退職されるまで、現代文化学科の教員として、一緒に仕事をさせていただきました。

先生は、会議の公の場においても、私的にお会いしている時も、決して感情的にならず、何事にも冷静に対処され、いつも誠実で忍耐強く、見習うべき存在でした。団塊の世代のよき先輩として、学園紛争の話に花を咲かせたり、また悩み相談に乗っていただいたりしたこともありました。ありがとうございました。

先生は一九八〇年四月に福岡女学院大学短期大学部英語科専任講師として着任し、二〇〇〇年三月まで二十年にわたり、短期大学に貢献されました。この間、一九八八年度には米国ペンシルバニア大学で研鑽を積み、一九九五年から二〇〇〇年まで図書館長、一九九六年から二〇〇〇年まで教務部長の任を果たされました。二〇〇〇年四月からは福岡女学院大学人文学部に助教授として異動し、二〇〇三年に教授となり、二〇〇七年度から二〇一六年度まで九年間、教務部長として多大な貢献をされました。二〇一五年五月には、学校法人福岡女学院

永年勤続表彰（三十五年 院長）を受けておられます。

本学の学務活動としては、その公平無私な姿勢と相まって、教務部長として他教職員から絶大なる信頼を得てきました。台風が来た時の休講の決断のタイミングがたいへんだったとおっしゃっていました。学生の安全を最大限に考慮するという姿勢はいつも一貫していました。

教育活動としては、ご専門のアメリカ文学関連の科目に加えて、一年生のアドバイザー、二年生から四年生までのゼミを毎年担当され、懇切丁寧なケアにより、学生からも厚い信頼を得てきました。一度、先生の研究室を訪問した折に、学生の連名で「ひろし、お菓子ください」という張り紙を見ました。「一年生のアドグルの子たちだ」とのことでしたが、学生からお父さんのように慕われている一面を垣間見ました。学部だけでなく大学院でも、先生のご専門の「英語圏文学特殊研究（アメリカ文学）」をご担当いただきました。

部活動では一九八〇年着任以来、硬式テニス部の顧問として、学生の引率、コーチと学生のあいだの調整と橋渡し役をずっと続けてこられました。

マレーシアのエアラインアカデミーへの引率もご担当され、それを引き継いだ私に、その経験を事前にお話しくださいました。緊急時の避難訓練で脱出用シートを滑り降りる時に、学生がはしゃいで盛り上がった話を聞きました。行ってみるとまさにその通りでした。

研究活動においては、日本文学学会、日本アメリカ文学学会、日本スコット・フィッツジェラルド協会に属し、フィッツジェラルドを中心に、ヘミングウェイ、ウィラ・キャザー、ナサニエル・ウエストなどの作品論を手掛け、作品の時代性（メディアとのかかわりなど）という観点から深い考察を進め、きわめて高い評価を得ています。

山本博先生、長い間福岡女学院のためにご尽力くださり、まことにありがとうございます。先生のますますのご活躍とご多幸を心よりお祈り申し上げて、送る言葉といたします。